

「障害者就業・生活支援センターの役割—アンケートの—結果から

鹿児島国際大学大学院 教授 蓑毛良助

アンケート結果

問 1. あなたの性別を教えてください。 1. 男性 (9名) 2. 女性(13名) 3. その他

問 2. 現在, おいくつですか。(年齢にあたる年代を○で囲んでください。)
10代(0名) 20代(4名) 30代(9名) 40代(2名)
50代(7名) 60代(0名) 70代(0名) 80代以上(0名)
平均年齢: 35.45(SD 10.93)歳

問 3. 障害者就業・生活支援センターの仕事の経験年数は ( 0 ~ 11 ) 年
平均年数: 4.13(SD 2.72)年

問 4. 障害者就業・生活支援センター以外で, 福祉の仕事をしたことがありますか。
1. ある → 仕事の経験年数は ( 1 ~ 20 ) 年 2. ない (3名)
平均年数: 6.16 (SD 5.19) 年

問 5. あなたの雇用形態を教えてください。
1. 正規職員 (17名) 2. 非正規職員(常勤) (5名) 3. 非正規職員 (短時間勤務) (0名)
非正規職員 5名中, 4名が 50代, 1名が 30代

別紙: 図 1. をご参照ください。

問 6. あなたの持っている資格を教えてください。
(複数回答可です。番号に○をつけてください。)

- 1. 社会福祉士 2. 社会福祉主事 3. 精神保健福祉士 4. 介護福祉士
5. 保育士 6. 幼稚園教諭 7. 特別支援学校教諭 8. 児童相談員
9. 臨床心理士 10. 看護師 11. ケアマネジャー 12. 理学療法士
13. 作業療法士 14. 言語聴覚士 15. 相談支援専門員
16. その他 ( )

別紙：図2. をご参照ください。

問7. 将来、取りたいと思う資格を教えてください

(複数回答可です。番号に○をつけてください。)

1. 社会福祉士	2. 社会福祉主事	3. 精神保健福祉士	4. 介護福祉士
5. 保育士	6. 幼稚園教諭	7. 特別支援学校教諭	8. 児童相談員
9. 臨床心理士	10. 看護師	11. ケアマネジャー	12. 理学療法士
13. 作業療法士	14. 言語聴覚士	15. 相談支援専門員	
16. その他	〔		

別紙：図3. をご参照ください。

問8-1. 就業・生活支援センターでの主な業務を教えてください

(複数回答可です。\*3つ以内で、番号に、○をつけてください。)

1. 就業面の相談
2. 生活面の相談
3. 障害者雇用率未達成の企業の開拓
4. 企業からの相談
5. 他の就労支援機関等からの相談
6. その他 ( )

問8-2. 問8-1で、「1. 就業面の相談」に「○」つけて下さった方に、お尋ねします。どのような就労面のご相談が多いでしょうか。記載できる範囲で、具体的にご記入ください。

( )は、回答者数

・就職・転職したい(一般企業、A型事業所)	(12名)
・職場やスタッフとの人間関係	(6名)
・勤務時間の変更や配置転換、スキルアップ、業務の整備、労働条件など働き方を企業に相談したい	(4名)
・職場定着のための相談	(3名)
・コミュニケーション面の相談	(2名)
・障害をオープンにして働く不安	(1名)
・会社の理解が得られない。	(1名)
・声かけの相談	(1名)

・障害特性の伝え方，配慮事項の伝え方。	(1名)
・発達障害の診断を受けたことや手帳の取得の相談。	(1名)
・仕事が覚えられない	(1名)
・作業遂行に関すること	(1名)

問8-3. 問8-1で，「2. 生活面の相談」に「○」をつけて下さった方に，お尋ねします。どのような生活面のご相談が多いでしょうか。記載できる範囲で，具体的にご記入ください。

( )は，回答者数

・金銭管理（借金，悪徳商法）	(13名)
・食事・健康に対する不安	(3名)
・対人関係	(3名)
・生活リズムが崩れると立て直せない	(2名)
・障害者手帳や年金手帳の受給・申請について。	(2名)
・家の片づけ	(2名)
・異性関係	(2名)
・家族や周囲の方々とのこと	(2名)
・生活が不安	(1名)
・妊娠，出産に当たっての対応	(1名)
・通勤	(1名)
・身だしなみについて	(1名)
・家庭内の理解	(1名)
・余暇の過ごし方	(1名)
・一人暮らし	(1名)
・住居の確保	(1名)
・ネット関係でのトラブル	(1名)
・服薬管理	(1名)

別紙：図4. をご参照ください。

問9. 相談に来られる方は，どなたが多いですか。

(複数回答可です。\*3つ以内で，番号に，○をつけてください。)

1. 当事者 2. 当事者の母親 3. 当事者の父親 4. 当事者の兄弟姉妹 5. 企業  
6. その他 ( )

問10-1. 相談に来られる方は，障害者就業・生活支援センターを利用される際に，他の機関から紹介されて来所されることが多いですか。

1. はい(22名)

2. いいえ (0名)

別紙：図5. をご参照ください。

問10-2. 問10-1で「1. はい」と、お答えになったかたに、お尋ねします。どちらの機関からのご紹介が多いでしょうか。(複数回答可です。\*3つ以内で、番号に、○をつけてください。)

1. ハローワーク
2. 障害者職業センター
3. 職業能力開発促進センター
4. ポリテクカレッジ
5. 発達障害者支援センター
6. 就労支援施設
7. 企業
8. 病院
9. その他 ( )

別紙：図6. をご参照ください。

問11. 発達障害者が、職場内で困ったときの相談相手はどなたでしょうか。

(複数回答可です。\*3つ以内で、番号に、○をつけてください。)

1. 障害者就業・生活支援センターの支援員
2. 経営者
3. 上司
4. 同僚
5. 家族等(具体的に教えてください： 父親 母親 兄弟姉妹 祖父母 叔父叔母 )
6. ハローワークの職員
7. その他 ( )

別紙：図7. をご参照ください。

問12. 発達障害者の就労における支援員として、特に困難さを感じる側面を教えてください。

(複数回答可です。\*3つ以内で、番号に、○をつけてください。)

1. 当事者に障害理解や障害受容がない
2. 家族等に障害理解や障害受容がない
3. 企業に発達障害者への障害理解や対応への知識が少ない
4. 他の機関と連携したいが、適切な連携機関が少ない、見当たらない
5. 当事者の希望する事業所や職種や希望内容と当事者の特性とのミスマッチ
6. 家族等が希望する事業所や職種の希望内容と当事者の特性とのミスマッチ
7. 挨拶や報告・連絡・相談など社会人としての基礎力の不足
8. 金銭感覚の不十分さ
9. コミュニケーション能力の不十分さ

10. こだわりの強さ

具体的にどのような「こだわり」でしょうか。

・食や物に対してのこだわり，それ以外はうけつけない。(1名)

11. その他 ( )

別紙：図 8. をご参照ください。

問 1 3. 発達障害者の就労が適応・定着するための効果的な要因と思われることを教えて下さい。(複数回答可です。\*3 つ以内で、番号に、○をつけてください。)

1. 休日の日数が多い
2. 休日の日数が少ない
3. 休日の曜日が定まっている (例えば、土日・祝日や、毎週水曜日が休みなど)
4. 休日の曜日が定まっておらず、不定期な勤務形態
5. 働く時間が短い (6 時間以内)
6. 働く時間が長い (8 時間以上)
7. 待遇(給与)に満足ができる
8. 勤務条件 (常勤・非常勤) に満足ができる
9. 業務内容が当事者の特性に合っている
10. 一緒に働く身近な人が、発達障害者への理解がある
11. 会社の経営者、あるいは人事部の人が発達障害者への理解がある
12. 個人差に応じた合理的配慮がなされている
13. 静かな環境で働ける
14. 一人になれる休憩場所がある
15. その他 ( )

問 1 4. 発達障害者が職場において、特性として強み (長所) となる側面を教えてください。

・時間やルールを守ることができる。	(6 人)
・集中力を持って、作業ができる。	(5 人)
・仕事に対して、真面目に取り組める。	(4 人)
・得意とするものに対しては能力や知識が高い、熱意がある。	(4 人)
・興味のあるものに特化しているが、はまると持続する、探求心が強い。	(4 人)
・本人の特性と仕事があえば、継続する力がある。	(4 人)
・環境や条件を整えば、安定して働ける。	(1 人)
・発想や物事のとらえ方が個性的で新たなアイデアを生む。	(1 人)
・会社側の合理的配慮の体制を整えれば、強みが出せるようになる。	(1 人)
・仕事が正確。	(1 人)
・行動力がある。	(1 人)
・細かいところに気づく。	(1 人)
・素直である。	(1 人)
・視覚情報に強い。	(1 人)

問15. 発達障害者が職場において、特性として弱み（短所）となる側面を教えてください。

( )は、回答者数

・コミュニケーションが独特で、会社側や人との意志の疎通がうまくとれない。 コミュニケーションスキル不足がみられる。	(8人)
・臨機応変な対応ができない。	(4人)
・場の雰囲気を読めず、場違いな発言や言葉遣いをするため周りの混乱を生む。	(3人)
・対人関係が苦手。	(2人)
・いつもと違う状況、環境など、変化に弱い。	(2人)
・優先順位がわからない。	(1人)
・衝動的な行動や言動がみられる。	(1人)
・応用が利かないため、基本的なことができない。	(1人)
・敏感な面がある。	(1人)
・特性がわかりづらく、周知が難しい。	(1人)
・勘違いされやすい。	(1人)
・力のペース配分ができない。	(1人)
・人に関心や興味をもてない。	(1人)
・不注意からのミスが多い。	(1人)
・意欲がないようにみられることがある。	(1人)
・信頼関係を構築することが難しい	(1人)
・社会性に不足がみられる。	(1人)

問16. 企業に、このような工夫があると、発達障害者の就労適応・就労定着につながると思われることがありましたら、教えてください。

・特性を理解し、環境を整える。一人になれる環境。	(6人)
・適切な相談者やキーパーソンの存在の必要性	(5人)
・職場内の研修会、勉強会。	(5人)
・業務マニュアルの整備（視覚的なマニュアル）	(4人)
・支援機関を有効活用してもらいたい。	(4人)
・一緒に働く職員や上司への当事者に関する特性の周知	(2人)
・指示の一本化、指示の明確化	(2人)
・本人の障害特性にあった仕事の切り出し	(1人)
・一歩引いて、みてもらえること。	(1人)
・定期相談を行う。	(1人)
・働く曜日や時間の固定化	(1人)

・周囲からの声かけ	(1人)
・気分転換を図るなど、余暇の充実。	(1人)

別紙:図9. をご参照ください。

問17. 次のような機関と連携がとれると、発達障害者の就業・生活支援に繋がると思われる関係機関があれば教えてください。

(複数回答可です。\*3つ以内で、番号に、○をつけてください。)

\*具体的に記載することが難しいときは、具体例は未記入で結構です。

1. 病院(何科の病院でしょうか: 内科 精神科 小児科 認知症外来 外科  
その他 )
2. 法律の専門家(具体的に教えてください: )
3. 学校等(具体的に教えてください: )
4. 近隣の地域の代表者等(具体的に教えてください: )
5. 心理相談室(具体的に教えてください: )
6. その他 ( )

別紙:図10. をご参照ください。

問18. 就業・生活支援センターにおける支援員として、大切なことを教えてください。

(複数回答可です。\*3つ以内で、番号に、○をつけてください。)

1. 当事者のために役に立つ(当事者との信頼関係)
2. 障害者就業・生活支援センターの支援員としての成長
3. 企業のために役に立つ
4. 発達障害に関する専門的知識や能力の習得
5. 発達障害に関する専門的知識の啓蒙活動
6. 支援者同士のチーム力
7. 他機関との連携力
8. 社会のために役に立つ
9. その他 ( )

問19. どのような支援やサービス等があれば、発達障害者の就労適応・就労定着につながると



思いますか。あなたのご意見をご自由にお書きください。

( )は、回答者数

・当事者・自助グループ	(3人)
・発達障害を専門とした就労支援事業所	(2人)
・本人の障害受容	(1人)
・本人の仕事に対する強みの把握	(1人)
・企業（職場内）の理解の必要性	(1人)
・学生の頃からの支援	(1人)
・発達障害者支援センターやハローワーク内に就労に特化した支援員を配置する。	(1人)
・発達支援事業をはじめとした各機関との連携を強化する。	(1人)
・専門職（医師、心理士、福祉の職員）との定期相談の機会。	(1人)
・新たな支援事業の整備	(1人)
・診断、サポートができる病院	(1人)
・自己理解を促せる場や自分にあった対処法を見つけられることが大事。	(1人)
・何かあった時ではなく、定期的な相談の場を設ける。	(1人)
・当事者や企業側と信頼関係をつくり、定期的に訪問し、課題に対して、早期に対処する。	(1人)
・発達障害者に特化した支援者を就労場面に派遣してくれる機関があればよい。	(1人)
・幼少期からの本人、家族へのサポートをつないでいく仕組みづくり。	(1人)
・障害の知識と本人の理解があったうえで、本人が地域で生きていく力を育む支援が必要。	(1人)
・支援者側のマニュアル	(1人)
・相談する場所の明確化	(1人)
・高校在学中からの発達障害あるいは発達障害傾向のある本人と家族への早期からの就労への働きかけ、教育と福祉の連携・協働ができる仕組み。	(1人)

ご多忙中に、お時間をいただきましたこと、感謝申し上げます。ありがとうございました。